

Ⅲ. 『上代より・・・』 (加茂 季鷹、中濱商店前)



上代より
千世の
契りや
有松の 千しほ
八千しほ
くくり
染けむ

加茂 季鷹 詠

平成十六年四月吉日 夢興書

①作者 加茂 季鷹 (かもの すえたか、1754～1841)

江戸後期の国学者。京都生まれ。姓は山本、号を生山・雲錦。和歌を有栖川宮職仁親王に学ぶ。江戸で歌人・文人と交わり、京に帰って上加茂の祠官となる。

狂歌を得意とし、居を雲錦亭と名づけ歌仙堂を設け、文庫に数千巻の書を蔵した。

② 歌が詠まれたいきさつ

江戸後期に加茂季鷹が竹田庄九郎家に立ち寄った折、詠んだといわれている。

③ 設置について

設置時期 平成16年4月

設置者 中濱 夢興氏 (中濱商店当主中濱郁雄氏、号は書城会より命名)

設置理由 有松東海道の町並みに何か詩情をと思い設置

歌碑石 那智黒石、縁起が良い石と言うことで昭和30年頃購入し、庭石と

して使用していたものを歌碑に活用
